

中遠地域の農業・林業の話題をお届けします！



きらり中遠 ホットニュース

静岡県中遠農林事務所

令和5年1月17日 発行（第3号）

掛川市の（農）山東茶業組合が内閣総理大臣賞及び農林水産大臣賞を受賞しました

（企画経営課）

掛川市の（農）山東茶業組合が、今年度の農林水産祭において、内閣総理大臣賞を受賞しました。

この賞は、過去1年間230件の農林水産祭参加行事で農林水産大臣賞を受賞した392点の中から、厳正な書類審査及び現地審査を経て決定されたものです。

山東茶業組合は、昨年度「関東ブロック茶の共進会」において受賞したことからノミネートされ、設立当初から組合員全員が「茶草場農法」に取り組み、先進的な機械化茶業生産を行いながら、環境と共生した伝統農法を継承している点、共同組織には珍しい60歳定年制を導入し、担い手の確保と若い世代への積極的な技術継承に取り組んでいる点等が評価され、この度の受賞に至りました。

また、同じタイミングで全国茶品評会（深蒸し煎茶の部）において1等1席（農林水産大臣賞）となり、嬉しいダブル受賞となりました。

当所では、今後も山東茶業組合の取組を支援していきます。



11月23日 明治神宮にて

第1回掛川市有機農業実施計画策定委員会が開催されました

（企画経営課）

掛川市では今年度、みどりの食料システム戦略推進交付金のうち有機農業産地づくり推進事業に採択され、「オーガニックビレッジ宣言」を目指しています。12月9日に、宣言に必要な「有機農業実施計画」の策定に向けた第1回委員会が開催され、当所長も委員として出席しました。

委員会に先立ち、久保田掛川市長から、有機に関して思い切った一步を踏み出す計画としたいとの意気込みが述べられました。

今後、委員会で検討を重ねて計画を策定し、年度内に農林水産省へ提出する予定です。県内で「有機農業実施計画」の策定に取り組んでいるのは、掛川市と藤枝市の2市だけです。

計画が受理されると、オーガニックビレッジ宣言ができることとなります。

JA 遠州中央茶園共進会が開催されました

(企画経営課)

12月7日から8日に、第31回JA遠州中央茶園共進会が開催されました。出点された19点は、11月下旬に袋井市や森町等で開催された地区共進会で、上位入賞した茶園です。

審査員は、JA経済連、西部農林事務所天竜農林局、そして当所職員が務めました。最優秀賞は、乗用型管理成木園の部13点、更新園の部5点、一般管理の部成木園1点の中から、乗用型管理成木園の部及び更新園の部とも、袋井市の丸尾雅昭氏が受賞しました。

近年、有機物を投入している茶園が少ないのですが、丸尾氏は、土づくりに力を入れ、菌床くずを堆肥として投入しています。

上位入賞茶園は、2月に予定されるJA遠州中央茶業者集会にて表彰されます。

また、当所は1月に開催する「今やらねばセミナー」にて、今回入賞した丸尾氏を講師として、茶園の土づくりを生産者に紹介していきます。



レタスのほ場巡回を実施しました

(生産振興課)

11月2日に、JA遠州中央レタス部会の生産者約30人で、年内採りほ場を巡回しました。10月の降雨量が少なかったため、レタスは小さめでしたが、特に病気もなく揃いも良好でした。

また、11月21日には、JA遠州夢咲レタス委員会の生産者約20人で、ほ場を巡回しました。台風後の乾燥や高温による影響が一部見られましたが、レタスは外葉も大きく順調に生育していました。

ほ場巡回は、生産者の皆さんが日頃の管理について意見を交わす場にもなっています。当所は今後も、レタス生産者を支援していきます。



中遠次世代いちご環境制御セミナーを開催しました

(生産振興課)

12月2日に、オンラインにて中遠次世代いちご環境制御セミナーを開催しました。管内のいちご生産者24人が参加し、環境制御技術の最新情報について学びました。

今回のセミナーは『CO₂と湿度管理』をテーマに、環境制御で課題となるCO₂施用や湿度管理の考え方について、(株)デルフィー日本の加納講師から講義を受けました。講義終盤には、理解できなかった内容や、普段の栽培で抱いた疑問について質疑応答がなされ、参加者は知識を深めていました。

本セミナー第2回は、令和5年3月2日の開催を予定しています。

当所では引き続き、いちご生産者を支援していきます。



水田で緑肥試験を実施しています

(生産振興課)

11月7日に袋井市太田の水田で、JA遠州中央と、肥料高騰対策の一つとして注目される緑肥の活用方法を検討するため、レンゲの播種試験を実施しました。

まず、イネ収穫後の水田に、ドローンによりレンゲを散播しました。続いて、ロータリーで浅く耕起する区画と、耕起しない区画に分けました。

今後は、レンゲの出芽状況の比較や、レンゲすき込み後のイネの生育を調査します。

試験結果は水稻生産者に紹介し、経営の安定化に向けて支援していきます。



花き生産ほ場視察研修を開催しました

(企画経営課)

当所に事務局を置く「ふじのくに花の都しずおか中遠地域推進協議会」は、中遠地域の花の会や行政機関等で組織し、花と緑があふれる「花の都」を掲げて活動しています。

会員は花壇管理に携わる方々が多いため、研修は従来、緑化技術に関する内容でしたが、今回はテーマを変え、11月17日に、花きを専門に生産しているほ場を視察することとしました。

視察先は、磐田市の新井園芸と、菊川市のやぎバラ育種農園です。参加者は、市町村の花の会やオープンガーデンのオーナーを中心に、42人も集まりました。

研修後のアンケートでは、栽培管理の深い知識が得られた、生産者の情熱に感動したという声が寄せられ、満足度の高い研修となりました。

当協議会は、花でつながる交流を推進し、花の都づくりに取り組んでいきます。



新井園芸 (磐田市)



やぎバラ育種農園 (菊川市)

「花育講座」を開催しました

(企画経営課)

12月1日に、県鉢物生産振興会中遠支部が中心となり、地域の子供たちに花を愛で育てる喜びを体験してもらう「花育講座」を開催しました。

今年度は袋井市内の放課後児童クラブで行い、小学1年生から6年生までの児童と指導員、計33人が参加しました。

「花育講座」は、資材の用意から講座の進行、実習指導まで生産者が行う、手作りの講座です。

子供たちは、御前崎市と磐田市の生産者が育てた花苗から5つ選び、袋井市の生産者が配合した培養土を使って、寄せ植えを作りました。

寄せ植えづくりは初めての児童が多く、株の向きや高さの決め方、土の入れ方など、生産者が付き添い、丁寧に指導をしました。

完成した寄せ植えを児童クラブの敷地に一列に並べていくと、鉢毎の違いが際立ちました。

中遠支部長の山本さんから、個性を大切にする園芸の世界を紹介し、「どの鉢も皆違い、皆素晴らしい」と作品を称え、大きな拍手が沸き上がりました。

当所は、花のある暮らしの豊かさを伝える活動を支援していきます。



花苗選び



植付け指導



敷地内に展示

森町向天方地区の人・農地プラン実質化について検討会を開催しました

(生産振興課)

森町向天方地区では、茶園の農道等基盤整備事業の実施と並行して人・農地プランの実質化を進めています。

12月8日には、森町役場において実質化の具体的な内容について検討しました。

向天方地区は地域としては9haほどの広さですが、今回実施する整備事業の受益面積は、約5.5haです。農道の道幅拡張のほか、堆肥舎の整備も行われます。

話し合いの結果、現在の中心経営体8人で、同地区の茶園を管理する方向で了解が得られました。

向天方地区は、森町の「モデル地区」にもなっており、今後、どのように中心経営体に農地を集積するのか協議し、「目標地図」を作成していきます。



磐田市内で農地バンク事業の活用が進んでいます （生産振興課）

磐田市は、JAの「円滑化事業」から「農地バンク事業」への切替契約の件数が県内で最も多い地域です。

今年度は、同市内3地区で切替契約会を開催することとし、市役所や当所も協力し、相談や事務に対応しています。契約締結面積は、11月までに計118.6haとなり、さらに1月の契約会で86.2haの切替を予定しています。

令和5年以降も「円滑化事業」から「農地バンク事業」への切替が進む予定ですが、令和8年以降は「農地バンク」から「農地バンク」の契約更新の件数が激増します。

当所では、市役所、公社、JAとともに協議を継続し、事務処理の増加に対応する方法を模索していきます。

青年農業士中遠支部の訪問研修会を開催しました （生産振興課）

10月21日に、青年農業士中遠支部の活動として、令和3年度新規会員および農業経営士の赤堀和博氏のほ場等を訪問する研修会を開催しました。

会員10人が参加し、新規会員から経営状況や目標、今後の取組について紹介を受け、親睦を深めました。

また、赤堀氏のイチゴほ場と、令和4年8月11日にオープンしたカフェを視察させていただき、参加者たちは赤堀氏と今後の目標や夢について語り合いました。

当所は今後も、青年農業士の活動を支援していきます。



森町でスイートコーンの新商品を開発しています （地域振興課）

森町ツーリズム研究会森町でつながる推進部会では、中山間の地域引力創出支援事業を活用し、町内農産物の新商品開発に取り組んでいます。

今年度は、森町特産のスイートコーン（甘々娘）のバタージャムとポタージュスープの商品開発を進めており、11月15日に部会員13人による2回目の試食会を開催しました。

バタージャムは、甘々娘の風味を維持し粒を残すことで食感もあり、高い評価を得ました。

原料には、友好町である北海道森町産のバター





を使用しており、コラボ商品としての販売を検討しています。
ポタージュも同様に、香りと味で好評を得ました。
当所では、部会活動を支援し、地域農産物を活かした新商品開発や、グリーンツーリズムの取組を推進しています。

西部地域豚熱集合施設運営演習を実施しました

(家畜衛生課)

11月1日に、中遠総合庁舎で豚熱発生を想定した集合施設運営演習を実施しました。西部地域局、中遠・西部農林事務所、市町、農協、袋井・浜松・天竜建設業協会等83人が参加しました。

演習では防疫支援班及び現地班防疫拠点係を中心に、集合施設と防疫拠点の設置、運営方法を確認しました。

昨年の豚熱防疫対応での反省点を踏まえ、必要資材の整理、防疫作業員の確認方法の検討、防疫拠点係の作業内容の確認等を行いました。

本演習での課題について更に検討し、今後の防疫対応に活かしていきます。



西部地域特定家畜伝染病本部運営演習が実施されました

(家畜衛生課)

11月16日に、西部地域局の主催により西部地域特定家畜伝染病本部運営演習が実施されました。

令和3年12月の豚熱防疫措置で現地対策本部内での情報共有に課題があったことから、統合ファイルサーバー等を用いた情報共有を試みました。

西部地域局及び中遠・西部農林事務所職員が参加し、本部員・幹事合同会議のオンライン開催、防疫計画の統合ファイルサーバーでの確認を行いました。

また、浜松市の養鶏場での高病原性鳥インフルエンザ疑い事例の発生を想定し、現地対策本部各班の作業内容の検討を行いました。

円滑な防疫措置が実施できるよう、今後も演習を重ねていきます。



令和4年度 優良業務委託表彰式を開催しました

(検査)

当所が発注した業務委託を対象に、優秀な成績を修めた建設コンサルタント等を表彰する「令和4年度静岡県中遠農林事務所優良業務委託表彰式」を11月17日に当所所長室で開催しました。

この表彰式は、建設コンサルタント等の健全な育成と公共工事に関する調査及び設計の品質確保を図るために毎年行われており、農林土木部門で昨年度完了した476件の中から所長表彰に当所発注の地質業務1件（㈱富士和）が表彰されました。



令和4年度 工事安全管理講習会を開催しました

(検査)

11月21日に、工事の安全な施工を図るため、袋井土木事務所と当所で合同の工事安全管理講習会を開催しました。

コロナ禍により、昨年、一昨年は中止していたため、3年ぶりの開催となりました。講習会には磐田労働基準監督署より地方産業安全専門官を講師としてお招きし、「労働災害防止について」の講習をしていただきました。

また、工事検査課から配布された「建設工事の安全対策について」のビデオ講習を行いました。

参加人数は、工事関係各社より総勢97人となり、現場の安全に対する意識の高揚を図ることができました。施工完了まで行政機関も一丸となって災害防止に取り組み、無事故での工事完成を目指します。



牧之原・茶イルド・スクールを実施しました

(農村整備課)

牧之原農業用水の受益地内の小学4年生を対象に、お茶に関する出前講座「牧之原・茶イルド・スクール」を実施しました。これは、牧之原畑地総合整備土地改良区、志太榛原農林事務所、当所が共同で実施しているもので、平成20年度に始まり、今年で15年目になります。

この出前講座は「参加型の楽しい授業」をコンセプトに、クイズや紙芝居を通して、お茶の歴史や効能、農業用水の大切さを伝えながら、将来にわたり牧之原の大茶園を守り育てる意義や大切さを学んでもらうことを目的としています。

今年度、中遠管内では10月6日～10月31日にかけて、6校で出前講座を行いました。クイズの答え合わせでは正解する度に大盛り上がり！お茶に興味をもってもらえるきっかけになったかと思います。

子供達に身の回りにある茶畑に興味を持ってもらい、お茶のファンを増やすべく、当所では広報活動にも力を入れています。



【美農里】いまい保全の会が、今井小学校で「田んぼの楽校」を行いました

(農村整備課)

美農里の活動組織「いまい保全の会」(袋井市)が、10月27日、今井小学校で「田んぼの楽校」を行いました。これは、年間を通じて今井小学校と連携し、小学5年生に米づくりを体験してもらう取組で、今回は稲刈りを行いました。

いまい保全の会の方からレクチャーを受け、手刈りに挑戦。ぬかるんだ田に足を捕られ、初めての体験に苦戦しながらも、次々と稲を刈っては束ねて稲架^{はざ}がけを行いました。並行して機械での稲刈りも体験し、子供達からは、「昔の人は機械がなくて大変だったと思う」「体験できて楽しかった」と感想が聞かれました。

また、積極的に地域の方に質問し、田んぼについての学習を深めました。

美農里の活動では、小学校との連携の中で、子供が地域の方々と接することで、農業や地域を身近に感じてもらい、これらを通して、将来の担い手である子供達に農業農村の大切さを伝えていきます。

当所は、美農里の活動を支援しています。



※美農里とは、「ふじのくに美農里プロジェクト」のことで、静岡県で実施する「多面的機能支払交付金」で行う活動の愛称です。

※「いまい保全の会」は、平成19年から美農里活動により、農地・農業施設の保全管理や地域の環境保全活動を実践しており、「畑の楽校」「田んぼの楽校」等、地域・学校と連携し地域に根差した活動を行っています。

菊川市倉沢の千框棚田で茶草場イベントが行われました

(農村整備課)

菊川市倉沢の棚田は、農林水産省つなぐ棚田遺産に認定されており、NPO法人せんがまち棚田倶楽部や静岡大学棚田研究会が中心となって、保全活動を行っています。

当地域では、棚田の保全活動を通じ、多様な人々の参加による地域活動が行われており、「千框の棚田」として、「ふじのくに美しく品格のある邑」に登録されています。

10月の稲刈りイベントに続き、11月26日は、茶草場イベントが実施されました。

始めに、堀事務局長から世界農業遺産「静岡の茶草場農法」の説明がありました。茶草場農法で作られたお茶は「やまが」の香りがすると言われており、茶草は美味しい茶作りに欠かせないものだそうです。

茶草場と棚田があることで豊かな生態系が守られており、これを未来へ繋げていくために、作業はきつくても頑張っていることが、熱く語られました。

また、お茶染め体験やほうじ茶づくり、バームクーヘン作り、薪割りなど、子供達が楽しめるイベントも満載。併せて猪肉の焼肉や豚汁も振舞われ、大満足の体験になりました。

当所は棚田の保全活動を支援していきます。



【ふじのくに美しく品格のある邑】 磐田市の「岩田」が令和4年度知事顕彰を受賞！ （農村整備課）

県内全35市町と県が参画する「ふじのくに美しく品格のある邑づくり連合」では、毎年度、様々な人たちが参画した邑づくりの先導的かつ象徴的な事例として、活発で発展的な活動に取り組む邑に対し、知事顕彰を行っています。

このたび、「岩田（磐田市）」が令和4年度の知事顕彰を受賞し、知事から顕彰状の授与が行われました。

「岩田」は、天竜川左岸の平野部と磐田原台地西端の、水田・畑作農業が盛んな地域で、一面に美しい農村景観が広がっています。この景観を守っていきこうと、地元組織「岩田故郷の会」が様々な活動を行っており、以下の点が高く評価され受賞に至りました。

- 地域の景観・環境保全活動、小中学校生徒の農業体験、農福連携、各種イベントなどが開催され、地域住民を巻き込んだ邑づくりが行われている。
- 新規就農者を含む若手・中堅への農地の集積・規模拡大が進められており、高生産・高収益の農業が展開されている。
- 様々な保全活動や、意欲ある農業が、結果として持続可能な農村環境づくりにつながっている。

川勝知事は、当地域の寺谷用水が世界かんがい施設遺産に登録されたことに触れ、「岩田」が世界レベルになったと評価し、水の恵みを利用して農業が栄えてきた地域の農村環境やかんがい施設に誇りを持って守って欲しい、また、この登録を機にこの地を訪れる人を素晴らしい景観でもてなして欲しいと、励ましの言葉をかけて下さいました。

当所では、今後も農山村の活性化のため、美しく品格のある邑の活動を積極的に支援していきます。



発 行：静岡県中遠農林事務所
〒438-8558 静岡県磐田市見付 3599 番 4 号 電話 0538-37-2272（企画経営課）
E-Mail：nourin-chuen-kikaku@pref.shizuoka.lg.jp
U R L：http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-760/